

平成 30 年度（2018 年度）

京都市立芸術大学 美術学部

入 学 試 験 問 題

京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

目 次

描写	1
描写モチーフ（画像）	2
色彩	3
色彩モチーフ・解答用材料（画像）	4
立体	5
立体モチーフ・解答用材料（画像）	7
小論文	8
評価のポイント（描写・色彩・立体・小論文）	12

2018年度 実技試験問題

科目 描写

時間 9時00分～13時00分

与えられたブリキ缶、りんご、ロープを台紙に配置し、鉛筆で描写しなさい。

●条 件

1. 対象物はすべて加工せずに描写すること。
2. ロープは自由な形にしてもよい。

【支給されるもの】

ブリキ缶1個、りんご1個、ロープ1巻、解答用紙1枚、台紙1枚、
カラーカード1枚

【使用してよいもの】

カルトン（56cm×40cm以上）、カルトン用クリップ、鉛筆（色鉛筆は除く）、
消しゴム、羽ぼうき（又はダスティングブラシ）、カッターナイフ（鉛筆削り用）

【注意】

1. 解答用紙は縦横自由です。どちらを表にしてもかまいません。
2. 解答用紙と台紙は同じものです。どちらを解答用紙にしてもかまいません。
3. ロープをとめている輪ゴムは対象物ではありません。試験開始後に回収します。
4. 席を立たずに、腰をかけたままで描写しなさい。
5. 試験終了15分前にカラーカードの貼り付け作業を行います。

【描写：モチーフ】



2018年度 実技試験問題

科目 色彩

時間 14時30分～17時30分

テーマ 「 対 比 」

下記の条件にしたがって色彩表現をなさい。

● 条 件

1. 解答用紙の画面すべてに彩色する。表裏どちらを使ってもよい。
2. 彩色は、透明水彩絵の具、不透明水彩絵の具、または両方を使う。
3. はさみのみを使い、黒白の紙を5枚に切り分ける。カッターナイフを使ったり手でちぎってはならない。
4. (1) 切り分けた黒白の紙すべてを、彩色済の解答用紙の上に平たく貼る。

(2) 黒白の紙のどちら側を貼っても、重ねて貼ってもよい。但し折り曲げてはならない。また彩色済の解答用紙から、浮いたり、めくれたり、はみ出したりして、貼ってはならない。

(3) 黒白の紙には彩色しない。

【支給されるもの】

解答用紙1枚、黒白の紙1枚、構想紙3枚、スティックのり1個、カラーカード

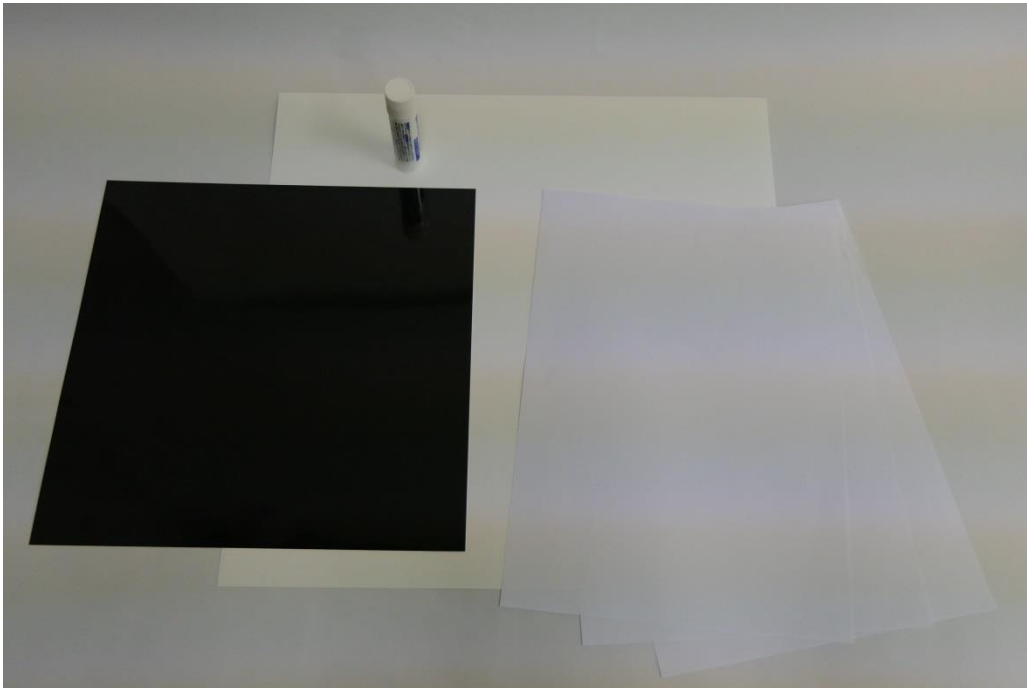
【使用してよいもの】

透明水彩絵の具、不透明水彩絵の具、直定規、鉛筆、消しゴム、筆、筆洗、パレット、絵の具皿、はさみ、カルトン、羽ぼうき（又はダスティングブラシ）、ぞうきん、クリップ

【注意】

1. 作業は着席したまま、カルトンの上で行う。
2. 試験終了15分前に、指示に従いカラーカードを貼り付ける。

【色彩：モチーフ・解答用材料】



2018 年度 実技試験問題

科目 立体
時間 9 時 00 分～ 12 時 00 分

与えられた粘土を使って「重い形」、「軽い形」をテーマに、
それぞれを制作し、2 点を解答用台の上に配置しなさい。

●条件

1. 2 つの形は離れていても、接していても構わない。
2. 解答用台は横位置で使用し、作品を固定する以外は一切加工をしてはいけません。
また、解答用台および解答作品には描写・着色をしてはいけません。
3. 支給された粘土は、全て使い切らなくてもよい。
4. 解答用台の穴に支給された丸棒（径 8mm）を差し込んで、必要に応じて作品を固定するための芯棒として使いなさい。ただし、外から見えないようにしてください。
5. 試験終了後、解答作品に触れてはいけません。各自、移動カバーをして、解答作品を持ち体育館まで階段など、約 300m を移動します。解答作品は持ち運びに耐えられるように十分な強度を持たせ、解答用台にしっかり固定すること。
6. カラーカードは、試験終了前に、監督者の指示に従い解答用台の右端に貼ります。
7. 解答作品は解答用台（30cm×35cm）からはみ出さず、また高さ 35cm からはみ出さないこと。

【支給されるもの】

解答用材料 : 粘土 4 袋、丸棒（径 8mm）長さ 3cm、6cm、各 2 本

解答用台 : 有孔ボード 1 枚（縦 30cm×横 35cm）

移動用カバー : 茶色段ボール箱 1 個、カバー固定用テープ 2 枚

制作支援用品 : B3 灰色ボール紙 1 枚（作業用）、上質紙 3 枚（アイデアスケッチ用）

【使用してよいもの】

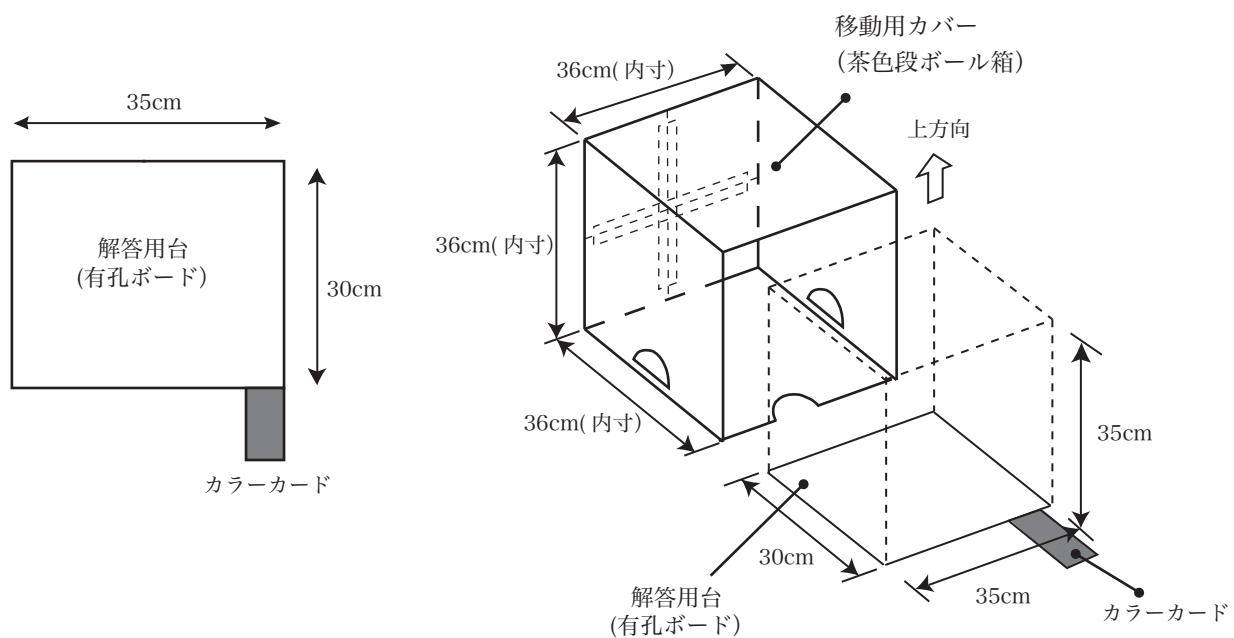
上記支給されるもの及び下記の立体受験用具

鉛筆、消しゴム、カッターナイフ、ボールペン、はさみ、直定規（60cm 以内のもの）、三角定規（30cm 以内のもの一組）、分度器、コンパス、粘土へら、ラジオペンチ、雑巾

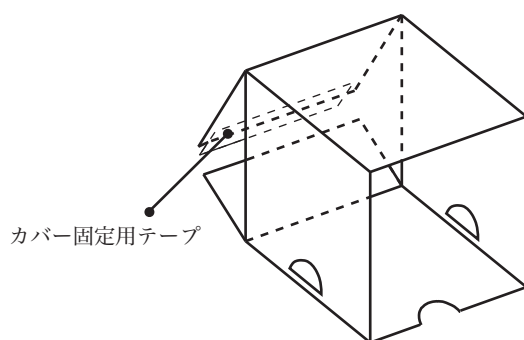
【注意】

1. 試験終了後に移動用カバーを被せます。移動後、体育館において指示に従い外すこと。
2. 解答作品には、解答用材料として支給されるもの以外は使用しないこと。
3. 上質紙 3 枚は、アイデアスケッチ用として使用すること。
4. カラーカードは、粘着シールを剥がして接着すること。
5. 作業は支給された灰色ボール紙上で行うこと。
6. 作業は着席したまま行ない、他の受験生の迷惑にならないようにすること。
7. 忘れた用具の貸し出しはしません。
8. 怪我のないように慎重に作業すること。

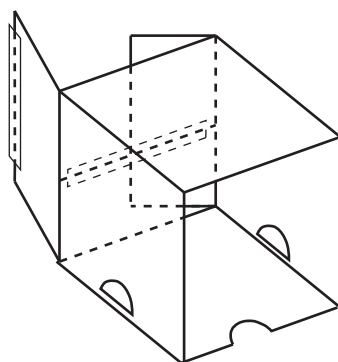
移動用カバー 組み立て説明



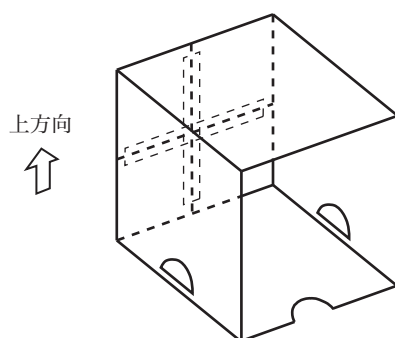
移動用カバー（茶色段ボール箱）組み立て順序 ① ② ③



- ① フタは上下を先に閉じる
カバー固定用テープを外側に貼る



- ② 左右を閉じる
カバー固定用テープを外側に貼る



- ③ 移動用カバー完成

【立体：モチーフ・解答用材料】



二〇一八年度 総合芸術学科入学試験問題

科目 小論文（二〇〇点満点）

時間 十四時三〇分～十六時三〇分

《注意》はじめによむこと

- ・問題一と問題二があります。
- ・答案用紙（横書き）は、問題一用、問題二用、合計二枚配付します。
- ・答案用紙は、表だけを使用し、裏は使用しないでください。
- ・すべての答案用紙に受験番号と氏名を明記してください。
- ・B4白紙一枚は、下書きに使ってください。

問題一

別冊子の文章は、中谷宇吉郎「自然の恵み―小国民のための新しい雪の話」（同氏『中谷宇吉郎 雪を作る話』平凡社、二〇一六年〔執筆一九五一年〕）から抜き出したものです。この文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

（一）筆者である中谷宇吉郎は、科学をどのようなものと考えていますか。答案用紙の所定の解答欄の範囲内で説明しなさい。（六〇点）

（二）あなたが、この文章の中に挿図を一つ入れるとしたら、どの部分に、どのような図を入れますか。次の指示に従って答えなさい。（六〇点）

ア 挿図によって説明したい文章の範囲を、記入例を参考に表示しなさい。

記入例

別冊子ページ1の1行目「この自然は」から、

別冊子ページ1の3行目「出来上がっている。」まで

イ 答案用紙の所定の枠線内に、挿図のイメージを描きなさい。また図の右横の解答欄に、なぜアの範囲を選んだのか、理由を書きなさい。

問題二

左の図版は画家ギュスターヴ・クールベ（フランス、一八一九～七七年）が一八六五年頃描いた風景画です。現在、アメリカ・メトロポリタン美術館に所蔵されているこの絵（キヤンバスに油彩、六四・八×八一・三センチメートル）には、海岸の漁船が描かれています。この作品を見て、感じたこと考えたことを、分かりやすく文章にまとめなさい（ただし字数は、八〇〇字以内とします）。

（八〇点）

実際の図版は著作権法上の関係で掲載しておりません。

ギュスターヴ・クールベ 《The Fishing Boat》

1865 年頃, メトロポリタン美術館

われわれは大きい自然の中で生きている。この自然は、隅の隅まで、精巧をきわめた構造になっている。その構造には、何一つ無駄がなくて、またどんな細かいところまでも、実に美しく出来上がっている。

寺田先生が⁽¹⁾かつて、どんなに精巧につくられた造花でも、虫眼鏡^{むしめがね}でのぞいてみると汚らしいが、どんなつまらぬ雑草の一部分でも、顕微鏡^{けんびきょう}でみると、実に驚くほど美しいということを書いておられる。これは非常に意味の深い言葉であって、自然のいろいろな物質、それは生命のあるものまでも含めての話であるが、そのものの深い奥底にかくされた造化^{ぞうか}の秘密には、不思議さと同時に美しさがある。そしてその不思議さと美しさとおどろく心は、単に科学の芽生えばかりではなく、また人間性の芽生えでもある。

こういう自然のいわば科学的な美と神秘とを、最もよく示す代表的なものとして、しばしば雪の結晶が例にひかれる。「中略」

雪の結晶というと、誰でもすぐ顕微鏡写真を思い出す。そして顕微鏡で見るということが先に頭へ来るので、たいていの人は普通の肉眼ではとても見えないものと思ひ込んでいるらしい。というのは、雪国に住んで、冬の間毎日のように雪を見ている人が、ほとんど誰も雪の結晶の形を自分の眼で見えていないのが、まことに不思議であるからである。札幌などで、雪の降っている中を歩いている時に、よく「この雪が皆美しい結晶をしているのですってね」というようなことをいう人がある。それで「ええ、こんなに美しい形をしていますよ」と外套^{がくとう}の袖^{そで}にくつついた雪を指して見せる。袖の上には小人の国の勳章^{くんしょう}のような美しい六花がのっている。そこで初めて「へえ、こんなに大きいものですか、なるほど六花になっていますなあ」と驚く人が多い。直径三ミリあれば、小豆粒^{あずき}くらいはあるのだから、肉眼で充分よくその形も模様もわかるのである。時には、小指の爪くらいの大きさの結晶もまじっている。

美しい写真をとったり、科学的に構造を調べたりするには、もちろん顕微鏡を使わねばならない。しかしその美しさをみとめ、自然の神秘に感嘆するだけならば、何も顕微鏡を必要としない。そういうふうにとすぐ、感嘆するだけでは、科学的でないというような抗議がでるが、それはまちがいである。顕微鏡写真で形を知ったり、本を読んで分類の名前をおぼえたりすることよりも、自分の眼で一片の雪の結晶を見つめ、自然の持っている美しさと調和とに眼を開くことの方が、ずっと科学的である。「中略」

少し山がかったところへスキーなどに行った時、雪の上に腰を下^かして、袖にふりかかる結晶を覗^{のぞ}いてみるのは、非常に楽しみなものである。風があまりなくて、硼酸^{ほうさん}の粉⁽²⁾のような雪がちらちら降って来る時は、たいてい六花の結晶、即ち雪の代表的な結晶である。非常に薄い平板状の結晶で、面はなめらかに光っている。形はいろいろあるが、皆六本の枝が中心から規則正しく六方へ伸び出た形になっている。まれに六角板も降ることがあるが、日本ではこの六角板は皆小さいので、よく注意しないと見逃すことが多い。細かい小枝がたくさん出ている、羊歯^{やうし}の葉のような形をした枝が、中心から六本出ている結晶が、代表的な六花結晶である。これだと小指の爪くらいの大きさのものがあつた。小人の国の勳章^{くんしょう}といったのは、この種類の結晶のことである。まれにこの六花が二つ重なって、十二花になった結晶も降る。そういうものが見付かったら、家へ帰って、お父さんやお母さんに大威張りでふいちょうしてもよい。そして友だちを、大いに羨^{うらやま}しがらせてやるべきである。「中略」

少し吹雪^{ふぶき}めいて、非常に濃い雪がどんどん降って来る時は、結晶は一般には六花型をしていない。枝の一本を見ると、六花の一枝と同じ形をしているが、それがたくさん集まって、中心から八方へ立体的にのび出ている。即ち栗のいがのような形をしている場合が多い。或いは六花を基本として、その枝の各点から、他の枝が立体的にのびているものもある。両者とも平板状でなく、立体的になっているのが特徴である。北海道などで、前を行く人の姿も見失いがちになるような濃い雪が降ることがよくあるが、そういう時は、たいていこの立体構造の雪である。「中略」

もう一度外套の袖に戻ろう。非常に寒い時には、粉雪が降る。ここでのいう粉雪は、スキー家たちが、いい粉雪だったというあの粉雪のことではない。スキー家たちのいう粉雪は、地面の上にもった雪がさらさらしているという意味である。それで六花でも何でも、さらさらしておれば粉雪だという。そうでなくて、空から降って来る雪が、細かい粉のような形をしている場合を、ここでは粉雪ということにする。粉雪を外套の袖に受けてみると、白い砂をまいたように見える。一寸見たところでは、ただの粉のようであるが、よく注意してみると、それが小さい六角の柱になっていることを知るであろう。虫眼鏡で覗いてみると、水晶^{すいしやう}の結晶のように、六角の柱の先が尖^{とが}っているものもあり、ただの六角の柱もある。いずれも本当の水晶以上にきらきらと美しく輝いている。水晶を磨^{みが}いて、こういう小さい宝物を作ったら、たいへんな贅沢^{ぜいたく}なものになるであろう。そういう宝物が、何億何兆となく降って来て、しかもそれがすぐ自分の眼の前にあるのに、それを全然見ようとしなのは、ずいぶんもったいない話である。

宝物といえば、このお伽^{とが}の国の水晶よりも、もっと珍しい貴重な芸術品も降って来る。それは六角の柱の上と下とに、六花の花型が咲いた結晶である。六角の鼓^{つづみ}のような形をしているので、鼓型の結晶と呼ぶことにしている。もっとも外国人には何のことかわからないかもしれないが、鼓型の結晶は、肉眼で充分よく見えるくらいの大きさである。上から見ると、普通の六花のようであるが、横から見ると、ちゃんと鼓の形をしているので、本物を見たら、誰でもなるほどと驚くにちがいない。「中略」

われわれの周囲には、雪と限らず、あらゆるものが、常に自然の美しさと調和とを示すために、その全体の姿をあげ放している。ただ一つ厄介なことは、せっかくこの自然の女神^{めがみ}の恵みを、人間があまり受け入れないことである。科学普及などという言葉が、案外それをじゃまする方に役立つことがないように希望する。「後略」

註

(1) 「寺田先生」 寺田寅彦。物理学者 (一八七八—一九三五)。中谷宇吉郎の師。

(2) 「硼酸」 H_3BO_3 。無色、もしくは白色の粉末。

評価のポイント

◆ 描 写

以下の項目を総合的に勘案し、基礎的描写力(客観的にものを観る力を含む)を評価した。

- ・モチーフの構成(モチーフをバランスよく配置することができるか。)
- ・画面の構図(配置したモチーフを効果的に画面に収めることができるか。)
- ・形体の把握(モチーフの形や大きさを正しく描くことができるか。)
- ・量感の把握(モチーフの部分と全体の両方を捉えて描くことができるか。)
- ・空間の把握(モチーフとの距離や関係を正しく描くことができるか。)
- ・明暗の把握(モチーフの陰影や明暗の階調を正しく描くことができるか。)
- ・質感と固有色(モチーフの質感や固有色を正しく描くことができるか。)
- ・素材と技法の理解(鉛筆、紙、消しゴムなどの描画材料を活かしているか。)

◆ 色 彩

出題内容を理解し、テーマにそって黒白の紙を活かした豊かな色彩と構成力で、独創的な表現ができて
いるかを評価した。

◆ 立 体

- ・テーマである重い形と軽い形のイメージが実現されているか。
- ・作られた2つの形が、空間的にうまく配置されているか。
- ・与えられた粘土の特性をよく理解し、作っているか。

◆ 小論文

問題一

(一)文章の構造や内容を的確に理解し、必要な情報を、与えられた紙幅を効果的に用いて、理論的に
分かりやすく説明できるかをみた。

(二)他者の書いた文章を、客観的かつ批評的観点をもって読解し、そこから得た自己の意見を的確に論
述できるかをみた。

問題二

作品の構図や色彩、表現された内容等に対し、自己の考えを分かりやすく論述する力と、文章を推敲
する能力をみた。

2018 年 4 月

京都市立芸術大学 事務局 入試担当

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町 13-6

Tel 075-334-2238

Fax 075-334-2281

<http://www.kcua.ac.jp>